月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.28



ファルコム jdk バンド
ドラマー・オカジの
人生半キャラずらし

jdk バンド
ボーカル・コテカナの
コテ放題♥

**ティオの
ファルコムラジオ
めんどくさいです…
でもがんばります
の舞台裏**

ファルコムニュース

Falcom FanArt Collection

今回のファルコム学園は四コマじゃない!?
みんな集まれ！ ファルコム学園

ナイアル＆ドロシーが逆取材!?『SC 編』ついに完結！
英雄伝説 空の軌跡 リベール王国スナップショット

Ⅶ組メンバーを演じたキャスト陣の収録後コメントを最速紹介！

英雄伝説 閃の軌跡 潜入レポート



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

THE LEGEND OF HEROES 閃の軌跡 センノキセキ

リベール通信緊急号外

潜入レポート

リベール通信 帝国支部
アッシュ洋平
リベール通信帝国支部の新米記者。先輩であるナイアル・バーンズにあこがれ、日々スクープを追う。

待望の発売日が決定!　さらにⅦ組メンバーを演じた主要キャストのコメントもゲットした。今回も注目情報満載でお届けしていく!!

9月26日発売決定!

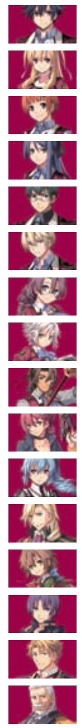
《Ⅶ組》メンバーのキャストコメントを一挙公開



豪華&人気声優陣が『閃の軌跡』に集結!!

発売日&キャストの発表で、いよいよ本格的に動き出した『閃の軌跡』。キャラクターを演じた声優陣のコメントをはじめ、新キャラなど盛りだくさんの内容で本作を徹底追求する!

キャスト一覧



■リィン・シュバルツァー
内山昂輝（うちやまこうき）
■アリサ・ラインフォルト
堀江由衣（ほりえゆい）
■エリオット・クレイグ
白石涼子（しらいしりょうこ）
■ラウラ・S・アルゼイド
伊瀬茉莉也（いせまりや）
■マキアス・レーグニッツ
佐藤拓也（さとうたくや）
■ユーシス・アルバレア
立花慎之介（たちばなしんのすけ）
■エマ・ミルスティン
早見沙織（はやみさおり）
■フィー・クラウゼル
金元寿子（かねもとひさこ）
■ガイウス・ウォーゼル
細谷佳正（ほそやよしまさ）
■サラ・バレスタイン
豊口めぐみ（とよぐちめぐみ）
■クレア憲兵大尉
松来未祐（まつきみゆ）
■ルーファス・アルバレア
平川大輔（ひらかわだいすけ）
■トワ・ハーシェル
野中藍（のなかあい）
■アンゼリカ・ログナー
進藤尚美（しんどうなおみ）
■ナイトハルト少佐
松原大典（まつばらだいすけ）
■ヴァンダイク学院長
堀井真吾（ほりいしんご）

■『英雄伝説　閃の軌跡』

メーカー：日本ファルコム
機種：PlayStation 3、
　　　PlayStation Vita
発売日：2013年9月26日
価格：
[PS3]通常版8,190円（税込）、
限定ドラマCD同梱版9,240円（税込）
[Vita]通常版7,140円（税込）
限定ドラマＣＤ同梱版8,190円（税込）

リィン役 ▶ 内山昂輝氏

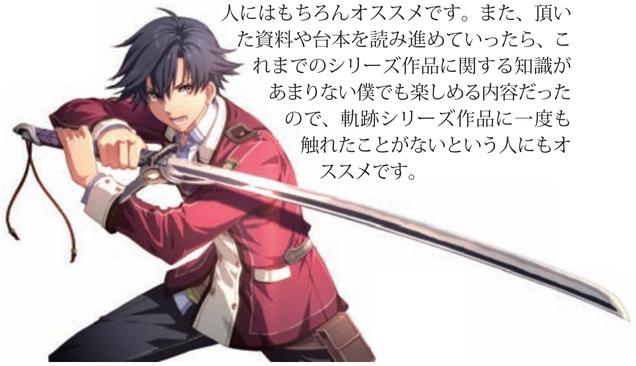


[代表作]
バナージ・リンクス（機動戦士ガンダムＵＣ）
滝川吉野（絶園のテンペスト）
相楽 深行（ＲＤＧレッドデータガール）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
内山：キャラクターの絵柄は結構ポップなタッチですけど物語はシリアスで、思想の違いによる対立だったり革命だったり、学園物なんだけど政治の問題に生徒達が巻き込まれていくっていう部分を読み解くのが最初は難しく感じました。収録開始時に、物語が進むにつれてリィンも成長していくから、演じる声のトーンも合わせて変わっていけたらいいねということになったので、プレイされる際はそこにも注目していただけると嬉しいです。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
内山：リィンはとても真っ直ぐな好青年で剣の使い手です。誰に対しても分け隔てなく接することができるので皆に好かれているし、Ⅶ組をまとめていきます。なので、演じるときは明るく聞こえて真っ直ぐな印象を与えるのが大事だと思い、それを意識して演じました。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
内山：軌跡シリーズの最新作ということで、以前からプレイしていた人にはもちろんオススメです。また、頂いた資料や台本を読み進めていったら、これまでのシリーズ作品に関する知識があまりない僕でも楽しめる内容だったので、軌跡シリーズ作品に一度も触れたことがないという人にもオススメです。



アリサ役 ▶ 堀江由衣さん



[代表作]
羽川翼（化物語／偽物語／猫物語(黒)）
里中千枝（ペルソナ４）
直枝理樹（リトルバスターズ！）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
堀江：すごく壮大なお話で、たとえばモンスターと戦ってというよりは複雑な人間関係の背景が絡まっていて……アリサはお母さんとの関係とか自分の家のしがらみとの戦いが出てくるキャラクターなんです。そういう点で複雑ではあるんですけど、ゲームをやっていくうちにその複雑さが奥深い軸になってくるので、とても面白いお話だなと思いました。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
堀江：可愛らしい女の子なんですけど、表情の中に勝気な要素があったりするんです。全体を通して思ったんですけど、今回はアリサの親離れ、家離れといった成長の過程を追っていくように思えました。反発しているところがあったんですけど、最終的にはそれを自分の中にどう受け入れていくかという話ですね。単にツンケンしてるっていうよりは芯が通っている強い子なんだなと。すごいお嬢様として育ったはずなのにしっかりしていて本当にいい子だなあと思います。でも「お礼は言わないわ」っていうセリフがあったので「お礼は言わないんだ⁉」と（笑）。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
堀江：今までプレイしてきた方もそうでない方も、たぶん今回の『閃』をやって他のシリーズをやるっていうのもすごく良いと思いますし、これまでプレイしてきた方はきっと「ここがリンクしてる！」と楽しめると思います。私は今回から参加なので、そのリンクポイントがどこにあるのかがわからないのですが、逆に今までのシリーズをやってみたいなと思いました。この1本だけでももちろん楽しめると思いますが、他のゲームと合わせると地図や歴史が埋まっていって、その世界を生きているように感じられると思います。キャラクターもそれぞれ個性があって可愛らしかったりするのでPS3でもVitaでも美しい画面とキャラクターの人間模様や青春群像を楽しんでいただければ嬉しいです！



エリオット役 ▶ 白石涼子さん



[代表作]
綾崎ハヤテ（ハヤテのごとく!!）
日影（閃乱カグラ）
古城アスカ（ダンボール戦機W）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
白石：今この瞬間すごい旅をして戦ってきた気がします（笑）。達成感で一杯ですね、色々あったなって。皆と力を合わせて戦うっていうのは定番なんですけどいいなあと。また一つのドラマを最後まで演じることができてとても気持ちいいです。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
白石：エリオットは可愛いですね！　見た目からして女の子みたいな感じで、セリフもよく一度言いよどむんですよ。だから本当に気が弱い子なのかどうなのかが最初はわからなくて。感情を乗せるのが難しかったです。そんな彼なのに魔導杖（オーバルスタッフ）を使える適性があって、それを見出されて彼なりに戦っていくのがかっこ可愛いです。女の子といい感じになるんじゃなくてリィンといい感じになるのが面白いですね。青春だな！　っていう感じ。各キャラクターが抱えているものがあるんですけど、エリオットの場合は自分自身の事で悩んでいたりして、そういうところがすごく彼らしいなと思います。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
白石：私もこのタイトルは知っていたんですけど初めて参戦したので嬉しかったです。制服で戦うっていうのは見た目にも可愛いし見どころいっぱいのゲームですし、是非この『閃の軌跡』もプレイしてエリオットも愛していただければ嬉しいです。よろしくお願いします！



※画面は開発中のものです

ラウラ役 ▶ 伊瀬茉莉也さん

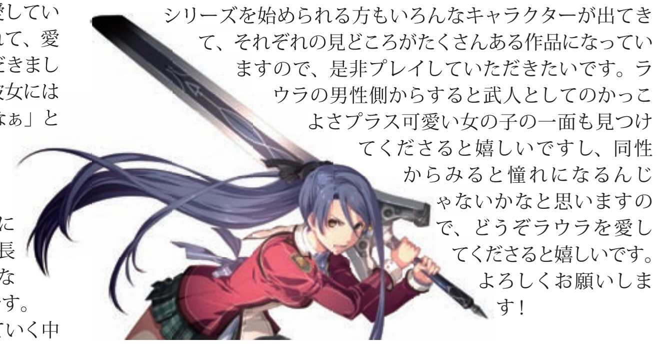


[代表作]
エル・メル・マータ（テイルズオブエクシリア2）
仲村 佐和（惡の華）
キルア（HUNTER×HUNTER）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
伊瀬：人気シリーズのタイトルということで、今まで作品を愛していらっしゃる方々にまずラウラっていうキャラクターを受け入れて、愛していただけるようになればいいなと思って演じさせていただきました。武人として戦いに身を置いている者としての凛々しさが彼女には備わっていて、演じている自分も収録を通して「かっこいいなぁ」と思ったりするところがすごく楽しかったです。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
伊瀬：見た目からしてすごく洗練された、きっとこの制服の下には鍛え抜かれた美ボディがあるんだろうなと（笑）。自分の身長くらいある大きな剣を振り回す力強さだったり、性格の真面目な部分だったりっていうところが声に出るように演じたつもりです。物語が進むにつれて主人公のリィンや皆と絆が出来上がっていく中で、時おり見せる彼女のすっとぼけたようなセリフも「ちゃんと等身大の17歳なんだ！」っていう安心がありました。最後の方でリィンとのかけあいがあるんですけど、そこでのラウラは武人である自分っていうより17歳の自分が出ているような気がしたので、そこは女の子としてすごく可愛らしいなと思いました。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
伊瀬：「軌跡」シリーズを今までプレイされてきた方々にとってもすごく楽しみな新作になっていると思います。物語も、戦いあり、葛藤と友情と涙もあり、深く楽しめる作品になっています。新規でシリーズを始められる方もいろんなキャラクターが出てきて、それぞれの見どころがたくさんある作品になっていますので、是非プレイしていただきたいです。ラウラの男性側からすると武人としてのかっこよさプラス可愛い女の子の一面も見つけてくださると嬉しいですし、同性からみると憧れになるんじゃないかなと思いますので、どうぞラウラを愛してくださると嬉しいです。よろしくお願いします！



マキアス役 ▶ 佐藤拓也氏



[代表作]
シーザー・ツェペリ（ジョジョの奇妙な冒険）
櫂トシキ（カードファイト!!ヴァンガード）
ガッシュ（イースvs.空の軌跡 オルタナティブ・サーガ）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
佐藤：今回は学園ものの要素が出ていた物語なので、他のキャラクターとの関係性や絡みが面白かったなあと思います。でもその根底にあるドラマはすごくメッセージ性の強いものですので、ゲームを進めていくと「こういうことになってるんだ！」という発見や驚きを感じることができるのがすごく楽しいのではないかなと思います。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
佐藤：一見仏頂面でとっつきにくい男の子なんですが、意外と努力家で、影でがんばるタイプだし、恥ずかしがり屋なんで表には出しませんけど熱いものを秘めた可愛い男の子だなあと思いました。誤解を恐れずに言えば、ピュアですね（笑）。そういうところを秘めつつ、皆さんに気づいてもらえればなと思って演じました。彼自身過去に負った心の傷があってのユーシスとの絡みなんですけど、ユーシスにはユーシスなりの思いがあるので、ぶつかりながら打ち解けていく友情はいいなあと思いました。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
佐藤：シリーズ６作目で３つ目の国の話ということですが、今までのシリーズとは趣きが違ってるんだなと思いますし、前回までの流れをそこまで知らなくてもこの作品だけで充分楽しめると思います。むしろこの『閃』をきっかけにして「この世界はどういうところなんだろう」と遡っていくのも面白いのではないでしょうか。「軌跡」シリーズを楽しむ新たなきっかけになればいいんじゃないかなと思います。



ユーシス役 ▶ 立花慎之介氏



[代表作]
ケンシロウ（ＤＤ北斗の拳）
立向居勇気（イナズマイレブン）
佐橋皆人（セキレイ）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
立花：そもそも僕は昔から『英雄伝説』をやってたので、その作品に出られるということは嬉しかったですし、このシリーズはキャラクターがいっぱいでてきてそのキャラクターたちが織り成す物語が面白かったりするんですよね。今回も学院生たちが自分の悩みを抱えながら成長していく物語ではあったので、それの一端を担えて嬉しいです。このユーシス君はすごくツンツンしてるんですけど、演じてて面白かったのは事あるごとに「ふん」とか「フッ」とか言ってて、これもまた彼の個性のひとつなんだなと思っていました。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
立花：ユーシスは最初、貴族の出身ということもあってとっつきにくいところがあったので、その自信溢れる人物感を出して、自信がありすぎるがゆえに、回りにいざこざが起こったりということがあります。でもその貴族たるべき、っていうところが学院で過ごしていく間に変わっていったりするのが物語の中にあるので、ツンとしたところがどうなっていくのかはお楽しみであります。貴族っぽい貴族ですね。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
立花：「軌跡」シリーズが久しぶりということもあって心待ちにしている方が多いと思います。シリーズならではの面白さも引継ぎつつ新しい要素やキャラクターが入ってきたりしているので、「軌跡」ファンはもちろん、あんまりやったことないっていう方にも、ここから始まる物語を是非ぜひ楽しんでいただけたらなと思っています。



エマ役 ▶ 早見沙織さん



[代表作]
新垣あやせ（俺の妹がこんなに可愛いわけがない）
高嶺愛花（ラブプラス）
鈴原泉水子（ＲＤＧレッドデータガール）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
早見：とっても自由に楽しくやりたいように演じさせていただいたので、気持ちのいい収録でした（笑）。キャラクター的にも真面目ながらも遊べるところも多少あったので、ギャップのある女子だったのかなと思います。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
早見：学生という面で言えば、クラスにひとりいるとすごく頼もしい委員長タイプの女の子ですね。でもとても人当たりがよくて優しい子なので、皆と仲良く、いざとなったら頼りになるような子かなと思います。……が！　物語が進んでいくにつれて色んな面が見えてくると思うので、奥に秘めた部分もプレイしながら紐解いていただければなと思います。いい子なんですよ！（笑）

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
早見：これまでのシリーズに引き続いて、今回もかなりシリアスなシーンもあればクスッと笑えるようなシーンもある作品になっていると思います。エマをはじめ可愛らしくかっこいいキャラクターがたくさん出てきますので、士官学院の一員として一緒にⅦ組でがんばっていきましょう！　という気持ちです。



フィー役 ▶ 金元寿子さん



[代表作]
琴浦春香（琴浦さん）
エイミー（翠星のガルガンティア）
イカ娘（侵略！イカ娘）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
金元：見た目がすごく可愛らしい女の子なんですけど戦闘シーンで結構しっかりしている部分もあるので、可愛い感じでやるのかかっこいい感じでやるのか考えてはいたんですけど、可愛いながらも戦闘モードはかっこよくっていう絶妙なバランスを保ちました。可愛く演じさせていただけて楽しく収録を終えることができました。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
金元：しゃべり方とかセリフの文章が特徴的で「ん」とかよく言うんですけど、ちょっとしたニュアンスが難しかったですね。嬉しそうだけど無表情だとか矛盾した両極のものが合わさって感情になっているところはなかなか挑戦しつつでした。ちょっととぼけた感じのところも所々あったりして、無口でクールに見えるかもですけど人付き合いが苦手なだけで女の子らしくて可愛い子だなあと思って演じました。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
金元：ゲームはひとりずつでの収録だったので、皆さんと掛け合わせて出来上がったものがどんな作品になるのかすごく楽しみにしています。アクションなんかもすごくかっこいいと思います。たくさんの方にワクワクしながら遊んでいただけたらなと思います。



ガイウス役 ▶ 細谷佳正氏

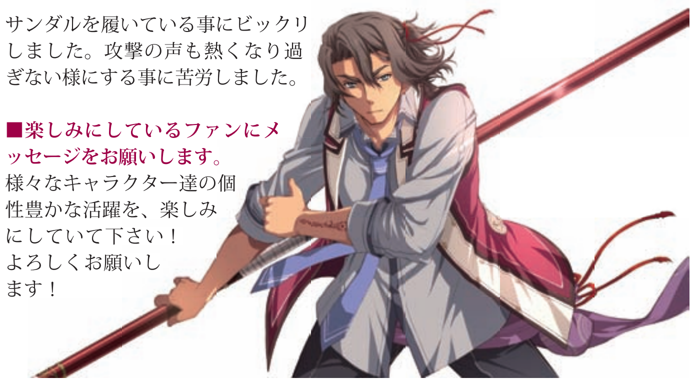


[代表作]
日向順平（黒子のバスケ）
綿谷新（ちはやふる）
鑢七花（刀語）

■収録を終えられた今の、率直な感想をお聞かせください。
周りのキャラクターより大人びているキャラクターなのでおさえる事が難しかったです。無事に終えられて良かったです。

■演じられたキャラクターについてお聞かせください。
サンダルを履いている事にビックリしました。攻撃の声も熱くなり過ぎない様にする事に苦労しました。

■楽しみにしているファンにメッセージをお願いします。
様々なキャラクター達の個性豊かな活躍を、楽しみにしていて下さい！
よろしくお願いします！



CHECK! 限定ドラマCDで描かれるもう1つの《Ⅶ組》の物語

コメントをいただいた《Ⅶ組》メンバーのキャストも活躍する、限定ドラマCD同梱版に付くドラマCD。このCDでは、『閃の軌跡』の膨大なシナリオのなかから、惜しくもゲーム化されなかった終盤の需要なシナリオを楽しむことができるとのこと。なお、限定ドラマCD同梱版は、ゲーム本編のディスクとCDの２つ付き。「PS ３」「PS Vita」でドラマCDの内容に違いはない。

次号以降も、続々とキャストコメントを公開予定！　乞うご期待!!

『閃の軌跡』のフィールド探索を先行体験！

探索開始



↑いざ出発。すでに敵が前にいるのが気になる。



→フィールドアクションでポコリ！相手は気絶した。

今回はなんと、待ちに待ったフィールド探索をプレイすることができた！魔獣との戦闘も行い、気づいたことをチェックしてみたぞ！

CHECK! キャラが移動中にしゃべる！アクティブボイスを本格体験

本作で導入された新システムの1つ「アクティブボイス」。ゲーム中は、声付きでキャラが地域や、強敵に対する警告などをしてくれるのだ。ダンジョン探索も、これで盛り上がりそう！



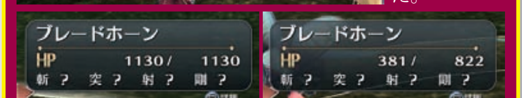
→ボイスの発生中も移動やフィールドアクションは可能。探索も快適に進められる。

今月のこの1枚 なんと同じ敵でも大きさが違う！

戦闘では、敵に個体差があることが判明した！その違いで、HPなどのステータスも変わる様に。ザコ戦も油断できなくなりそうだ。



←よく見ると、体の大きさが違う。ステータスも、下の写真の様に変わるのだ。



サイズでステータスが変化！



さらに進むと小川の流れる道に



↑→道中には、『碧の軌跡』でおなじみの壊せるオブジェが！ 壊してお宝をゲットだ!!

森の奥の広場に到着!!





←最終目的地直前には、シリーズなじみの休憩ポイントが。本作でも、体力回復などが行えたぞ！

さらに2人の帝国関係者も!!



「あはは、そんなにかしこまらなくていいよー。」

トワ・ハーシェル

年齢：18歳／使用武器：「小型拳銃」
CV：野中藍

士官学院の生徒会長を務める、かなり小柄で年下にしか見えない先輩。平民出身だが相当な頑張り屋＆お人よしで、傲慢な貴族生徒も毒気が抜かれるのか不思議と人望が集まり、周りから推されて断りきれず生徒会長に就任したらしい。幼い外見だが年上の先輩であるのは間違いなく、リィンが壁にぶち当たった時にはさり気なく相談に乗ってくれる。

「フッ、これも女神の巡り合わせというものだね。」

アンゼリカ・ログナー

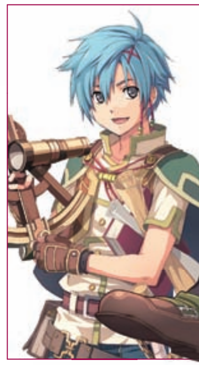
年齢：19歳／使用武器：「手甲」
CV：進藤尚美

四大名門の一つ、北部ノルティア州を統括する「ログナー侯爵家」の息女。制服は着ずにライダースーツで「導力バイク」を乗り回している自由奔放な麗人で、バイクの次には女の子が好きらしく、学院の内外に恋人が何人もいるという噂も……？ 東方の流れをくむ武術を修めているらしく、かなりの使い手。生徒会長のトワとも仲が良く、リィンたちの良き先輩としてサポートしてくれる。



CHECK! ハーシェルという名字と言えば!? トワとナユタの関係は？

『那由多の軌跡』の主人公と同じ名字を持つキャラが登場！ 名前も「那由多」と「永久」と"時"にまつわる漢字に置き換える点も気になるところ。その関連性も注目したい。



CHECK! 東方の武術とは泰斗流？

アンゼリカが修めている武術は、東方の流れを汲むという。東方の武術といえば、共和国出身者の遊撃士・ジンや、彼の師匠の娘・キリカが扱う泰斗流が頭に浮かぶが？ この流派に関して、意外なところで意外な人物が出てきたりして!?



ジン＝ヴァセック

公式サイトにて『軌跡』シリーズの年表が公開された！

この5月より、『閃の軌跡』の公式サイトのリニューアルに伴い、新たな企画として本作を含めた『軌跡』シリーズの年表が公開された。そこは本作がどのタイミングで始まる物語かなど、気になる情報が満載！ プレイ前に、ぜひともチェックしてみよう。

年	出来事	作品
1202	遊撃士見習いエステル・ブライト、ヨシュア・ブライト、地方都市ロレントを旅立つ リベール王国にて第60回女王生誕祭開催 リベール王国にて三ヶ国不戦条約締結	空の軌跡FC ～ the 3rd
1203	リベール王国全土で導力停止事件発生 ケビン・グラハム、リース・アルジェントが古代遺物《レクルスの方石》回収のためリベール王国へ	空の軌跡FC ～ the 3rd
1204	クロスベル警察・特務支援課発足 トールズ士官学院に特科クラス《Ⅶ組》発足 クロスベル自治州・成立70周年記念祭開催 クロスベル自治州にて西ゼムリア通商会議開催	零の軌跡／碧の軌跡／閃の軌跡

年表の詳細は『閃の軌跡』公式サイトにGO!

英雄伝説　空の軌跡
～リベール王国スナップショット～

著：はせがわみやび

第11回『ナイアル＆ドロシー』

1.

　リベール王国の王都グランセルには、街の中央を王城に向かってまっすぐに走る大きな通りがある。
　居酒屋『サニーベル・イン』はその通りの中ほどにあった。すぐ近くにホテルのレストランもあるものの、お財布に易しいお手頃価格の品揃えと居心地の良さから、この居酒屋のほうを利用する者も多い。
　ナイアル・バーンズもそうした客のひとりだ。
　一階のカウンターの端に陣取り、固いパンをスープに浸して食べていた。
「給料日前には、この居酒屋の朝定食はありがたいよ」
「あらまあ、それは嬉しいわね」
　カウンターの向こうで店主のクレディが微笑みを浮かべる。
「特にこのスープがいい。魚を卸したときの残りをくず野菜と煮込んで、塩コショウだけで味付けた。温かいことが最大の取り柄の、手をたっぷりと抜いたこのスープが美味い！」
　ひくっとクレディの頬がひきつった。
「ケンカ売ってるの、ナイアルさん？」
「事実をありのままに伝えるのが記者の役割だからな」
「ん、もう！　そんなこと言ってると、次からはナイアルさんだけは倍の料金をいただきますよ！」
「俺が悪かった」

「まったく……。リベール通信社の誇る敏腕記者がそんなこと言って」
「俺は敏腕記者なんかじゃねぇよ。……っと」
　ナイアルはおしゃべりをやめて口を閉じた。全身の感覚を針のように研ぎ澄ませる。
　また、だ。
　視線を感じた。
　顔を動かさずに目だけを動かして左右を窺う。
　——あいつか。
　薄暗い奥の小さなテーブルにひとりで座っている男——いや、少年か。
　見た目は十六、七といったところ。視線を隠すつもりか知らないが、つばの短い茶と黒の格子柄の帽子を目深に被っていた。
「へたくそめ……」
　気配を消しきれてはいない。
　明らかに素人だ。
「ん？　なんですか、ナイアルさん」
「あー、いやなんでもねえ。払いはココに置いとくからな」
　ミラをじゃらっと置いて席を立つ。
　戸口に向かいながらアレコレ考えたが、自分が見張られることに、どうにも思い当たる節がなかった。
　ナイアルは新聞記者だから、敵がいないと言えば嘘になるが。
「様子を見るか……」
　そのまま店を出て石畳を叩いて南へと歩く。
　交差する道をひとつ過ぎると、すぐに遊撃士協会の『グランセル支部』だ。
　ふと思いたって、扉を開けて覗き込む。
　奥のカウンターで男が顔を上げた。
　受付をしているエルナンだ。
「おや、ナイアルさん。どうしました？」
「別に何か用があるってわけじゃねえんだけどな。最近、どうだい？」
　言いながら、ナイアルは扉の内へと入る。視線を遮るように後ろ手で扉を閉めた。
　——さて、どうでるかな？
　追跡者の次の行動を予測しつつ、ナイアルは部屋の中を見廻した。
「どう、と尋ねられましても……まあ、相変わらずですが」
　エルナンが穏やかな口調で言いながら、手をひらひらと掲示板のほうへと振る。
　遊撃士協会の支部はどこも似たり寄ったりの造りをしていて、遊撃士たちへの依頼のメモを貼る掲示板が部屋の隅にで

んと立っており、奥に受付のカウンターが設置されている。
　掲示板には様々な依頼を書きとめた大小のメモが所狭しと貼られていた。
　相変わらず遊撃士たちは大忙しのようだ。
「へぇ。少しは世の中も平和になったかと思ったが」
「大きな事件は減りましたよ。リベールの行く末を左右するような事件は、ね。おそらく……ですが。それでも人の世に悩みの種が尽きることはありません。子どもの進学問題から、ご近所の不法ゴミ投棄まで、なべて世は事も無し――とはいかないようです。残念なことですが」
「おいおい。それ、遊撃士の仕事じゃねえだろ」
　人々の安全と平和を守ることを目的として設立されたのが遊撃士協会のはずだ。
「仕事は選べないから仕事なんですよ？」
「確かにな」
「おや、ナイアルさんもでしたか。これは意外です」
「ちょっと待て。俺が仕事を選んでるって言ってるか、それ！」
「そうですよ。ゴシップが苦手で、事件記事にばかり熱を入れるジャーナリスト。それがナイアル・バーンズと聞きました」
　痛いところを突かれてナイアルは思わず声をあげる。
「こら待て。誰に聞いたんだよ！」
「ヨシュアさん」
「ぶっ！」
「ああ、もちろんエステルさんもですよ」
「エステルもかよ！」
　若き遊撃士コンビの名前を言われて大声を出してしまった。
　女装が似合うほどの優しい顔立ちをしているが、ヨシュアが時に辛辣であることは薄々とナイアルも気づいている。だが、天真爛漫を絵に描いたような少女であるエステルにまで言われていたとは。
「あいつらぁ……」
「ナイアルさん、好かれてますねぇ」
「年下にからかわれて何が嬉しいんだよ」
　じろりと睨むが、エルナンはにこにこと笑うばかりだった。
　これだから遊撃士というやつは厄介なのだ。一癖も二癖もある連中が揃っている。
　まあ――彼らのおかげで何度も事件の取材に成功していることも確かなのだが……。
「ったく」
　当人たちがいないのに文句を言っても愚痴にしかならない。それは彼の主義ではない。ナイアルは気持ちを切り替えて、エルナンとしばらく取り留めもない会話を交わした。

　こうした些細な言葉のやり取りから、厄介な事件に関する重要なヒントを得られることもある。記者としては常に耳をそばだて目を開けていなければならない。
　というのは建前で、今は単なる時間つぶしだ。
　――さて、どうなったかな。
　適当なところで会話を切り上げて、ナイアルは遊撃士協会の支部を出る。
　街灯の影に隠れていた人影が動きだした。
　――諦めてなかったか。

2.

　大通りを西へと渡り、武器商会と工房の間を抜けた。
　その先は住宅地になっていて、狭い路地が多い。まっすぐに仕事場に向かうことはせず、ナイアルは歩調を徐々に早めて路地をぐるぐると回ることにする。
　右、左、右と曲がって、一度大聖堂の前へと出ると、そこから一気に駆け足に。
　走って狭い路地へと飛び込む。息が切れたが背後の気配は消えていた。
　どうやら撒けたらしい。
「やれやれ」
　脚のふくらはぎのあたりがやや痛い。ナイアルは日頃の運動不足を実感してしまう。何かスポーツでも始めるかなと、やりもしないことを毎度のように決意するナイアルだった。
　コーヒーハウス『パラル』へと辿りつくと、テラスに置いてある椅子にへたり込んだ。
　マスターがナイアルに気付き、注文を取りにきてくれる。
「コーヒー。ブラックで」
　淹れてもらった黒い液体をゆっくりと喉に流し込んでいると、向いの建物からふたり組の人物がナイアルのほうへとやってくるのが見えた。
　手前の人物は良く知っている。明るい色のブラウンの髪を風になびかせ、頭の後ろで束ねた黄色いリボンをぽんぽんと跳ねさせている。
　鼻先に乗った小さな眼鏡がトレードマーク。
　同僚のカメラマン、ドロシーだった。
　ほんにゃりとした笑みを浮かべ、ナイアルを見つけていつものように手を振ってくる。
　ただ、子犬のように走りだしたドロシーの後ろには、もうひとり、見慣れない顔が付いてきていた。
　若草色のスーツを着た若い――男？
　いや、女だ。
　近づいた顔を見ればまだ若い。十四か、五。だが、すらり

とした細身の身体に男物のスーツを着ていて、ネクタイまできっちり締めている。頭にはどこかで見たような茶と黒の格子柄のハンチング帽を乗せていた。

　スーツ少女を従えたドロシーが声を掛けてくる。

「ナイアル先輩！　やはりココにいましたかぁ！」

「おう。どうした」

　ドロシーに返事を返しながらも、ナイアルは後ろの少女を観察している。

　その少女が肩から斜めに提げているのはオーバルカメラだった。

　——カメラマン、か？

　帽子から覗くのは明るい金色の髪で、サファイアを嵌め込んだような青い瞳を持っていた。まるで人形のように綺麗な娘だ。

　ただ、惜しいかな、目つきが悪い。

　何かを企んでいる悪人みたい、と評されるほど目つきの悪いナイアルには、他人のことは言えないが。

「どうした、じゃ、ありませんよぅ。遅いですってば」

「今月分はもう校了したろ」

「そっちじゃないです。編集長がお呼びなんです」

「編集長が？」

　ナイアルは首を傾げる。

「何かやらかしたか、俺？」

「そこで素直に自分の悪行に思いを馳せてしまうところがセンパイですねぇ」

「ぐっ。……俺、今日は責められる運命なのか？」

「はい？」

「なんでもねえよ。このまま帰って寝ちまうかな……」

　痛いところを突かれてばかりなのは、日が悪いということだろう。

「ダメですよぅ」

　席から動かないナイアルの腕を引っ張ってドロシーが立たせようとする。

　そんなふたりを氷のようにクールな瞳で見つめていたスーツ少女が、視線を外し、ナイアルの肩口から背後を見た。

　薄い桃色の唇を開く。

「あんた何やってんのよ」

　視線を追ってナイアルは振り返る。

　見覚えのある茶黒の格子柄の帽子をかぶった少年がよれよれになっていた。

　——追いついてきやがったか……。

　だが、朝の面影はもはやない。

　服は乱れてあちこちかぎ裂きになっており、ネクタイは弛んでしまって辛うじて首からぶら下がっている状態だ。帽子も斜めになって今にも落ちそうだった。

「こ、このオヤジ、妙にすばしこくて……」

「おいこら。その、オヤジってのは、俺のことじゃないだろうな」

　釘を刺すように言ってやったら、死んだ魚みたいな目で見られた。

「俺は村で一番速かったんだ」

「じゃあ、今日から二番目だな」

「こ、この街は俺の村じゃない。そっちのホームグラウンドじゃないか」

「知るか」

　相手に合わせる義理はない。

「先輩、お知り合いで？」

　ドロシーが会話に割って入ってきた。

「知らん」

「はあ。さすが先輩です。見ず知らずの人とそこまで陰険漫才ができるなんて」

「漫才じゃねえ！」

　ナイアルの叫びはドロシーの耳には届かなかったらしい。

「ということは、ああ、なるほど、あなたがシオンさんですね？」

　何が「ということは」なのか「なるほど」なのか。

　ナイアルにはさっぱりだったが、どうやらドロシーの指摘は正しかったらしい。

「シオン・フォレストです」

「それにしてもボロボロになりましたね！」

「追っかけてたら、側溝にはまるし、散歩中の犬に追いかけられるし、鳥に糞を落とされるし、踏んだカエルにはケロケロ啼かれてからかわれるし。俺、もう……ぐす」

「ださいわね」

　きっぱりと断言したのはスーツ少女のほうだった。

「ひ、ひどいよ、ケイ。苦労したんだよ！　もっとねぎらってくれたって」

「涙声で言うほどのことかしら。三十路に尾行を撒かれたなんて、恥にもほどがあるわね。あんた、体力だけが取り柄なんだから、もっと頑張んなさいよ」

　聞き捨てならない台詞に思わずナイアルは声を張り上げてしまう。

「ちょっとまてコラ。俺はまだ二十九だ！」

「……やや三十路？」

「曖昧にして正当化すな！　俺はまだ二十代だって言ってんだよ！」

「自信のない人ほど大声になると言いますが」

「ぐぬぬ」

ああ言えば、こう言う娘だった。

「はらー。すごいですねー。ナイアル先輩を言い負かした人って初めて見ました」

ドロシーが感心していた。

厳密に言えば初めてではないと思うが、珍しいことは確かだろう。ナイアルもここ最近では覚えがない。だからといって怒りが収まるものでもなかったが。

「いったい、何者（ナニモン）だよ、こいつら！」

「ええと……」

宙を見つめ、顎にひとさし指を当てながらドロシーが答える。

「後輩さんだそうです」

3.

「ドロシー君の言うとおりだよ」

椅子にふんぞり返ったまま、編集長が小気味良さげに言った。

「呪われてしまえ……」

「ん？　何か言ったかい、ナイアル・バーンズ君」

「いえ……」

落ち着け、とナイアルは自分に言い聞かせる。

たった今編集長から聞かされた話が信じられない。

おそろいの格子柄の帽子をかぶったふたりは、新聞記者志望の学生だというのだ。

しかも、ふたりがココにいる理由は――。

「もう一度繰り返そうか？　彼らは君に逆取材に来たのだ。『フューリッツァ賞』を受賞した我がリベール通信社きっての敏腕記者ナイアル・バーンズにね」

「俺を取材ですって？」

「厳密に言えば、君とドロシー君をだ」

「あら、わたしもでしたか」

「はい」

頷いたのはスーツの少女だ。

確か、ケイと呼ばれていた。

「彼らふたりは、君たちとちょうど同じようなコンビになるわけだな」

「俺、卒業したら新聞記者になろうと思ってるんです！」

「わたしはカメラマンに」

「そしてできれば俺、リベール通信社に入りたいんです！　だって、リベール通信は王国最大にして最高の報道機関だし、お抱え記者の『ナイアル&ドロシー』と言えば、あの『フューリッツァ賞』を受賞したばかりじゃないですか！」

語りながら、シオンはどんどん自分でテンションを上げていった。

どうやらスイッチが入ると抑えの利かない性質（たち）らしい。

確かにシオンとケイは、記者志望の少年とカメラマン志望の少女という点ではナイアルたちと同じだ。ただ、性格のほうはナイアルたちとは逆のようだった。突っ走る性質と慎重派という意味で。

「『フューリッツァ賞』ですよ、『フューリッツァ賞』！」

シオンのテンションは一向に落ちない。

「あの、世界的に有名な盲目の記者、マルセル・ニールセンとかと並ぶんですよ！　我が国のジャーナリズムの誉れです！　俺、リベール通信に載った記事は、ぜんぶ切り抜きにして取ってあるんです。リベール通信の凄腕コンビ、ナイアル&ドロシーといえば、今では世界に通用する記者ですよ！」

「凄腕コンビねえ」

「すごいですねー、ナイアル先輩って、ひょっとして凄かったんですねぇ」

「あのな。おまえも言われてるんだからな？」

「えっ？　誰がですか」

――そーいや、こーいう奴だったっけ。

ドロシーのほんにゃりした顔を見ていると、力が抜けてしまう。何に怒っていたのか判らなくなりそうだ。

「俺は、ホントに会うのを楽しみにしていたんですよ。それが……こんな冴えないオッサンだったなんて」

「おいマテこら」

「そうよ、シオン。その発言はいただけないわ」

意外なことにケイも反論した。

「見た目で判断するなんて記者としては最低よ。わたしたちは何のために取材にきたと思ってて？」

「ケイ……？」

「ポンコツ呼ばわりするなら証拠を集めてからよ」

きっぱりと宣言した。

そしてポンコツというところに疑いを持っていないようだった。

「てめえらなぁ……」

精一杯おどろおどろしい声を出そうとしたが、ナイアルのもくろみはあっさりと潰えてしまう。

大声で編集長が笑いだしたからだ。

しばし爆笑してから、編集長は宣言した。

「いいね！　確かに百聞は一見にしかずは記者のイロハだ。他人からの情報を鵜呑みにせず、自らの足と目を用いて真実に迫るのが記者魂と言える」

編集長から持ち上げられて、シオンが感激に頬を紅潮させた――って、ちょっと待ってくれ。こいつは嫌な流れじゃないか？

「よし。では、実際にこいつがポンコツ記者かどうか自分の目で確かめてみたまえ。シオン君、ケイ君。今日一日、君たちの取材を許可する！」

「本当ですか！　やったあぁ！」

「ありがとうございます」

ふたりが揃って頭を下げた。

「ちょおおおっと、へんしゅうちょうおおお！」

「ナイアル。君とドロシーは、進んで彼らの取材に協力したまえ。若き新聞記者見習いに現場を見せてやるんだ」

「あ、あのですね、編集長」

「なんだね？」

「俺たち——俺とドロシーはこう見えても取材で忙しくてですねえ。子どものママゴトに付き合ってる暇なんて……」

「ナイアル・バーンズ君」

うっすらと微笑みさえ浮かべて編集長がナイアルの名前を呼んだ。フルネームでだ。

目がちっとも笑ってなかった。

ナイアルの心の内側で警報が鳴る。

——ああ、何か俺、ヤバイものを踏んだぞ。

「先ほど正午の鐘がなり、今はもう午後一時を回ろうとしているわけだが……」

編集長の言葉にナイアルはぎくりと身を強張らせる。

「きょ、今日は時間の過ぎるのが早いですね。あ、あははは」

「知っているかね？　今日は平日で、我が社の記者は昼前にはみな出社している」

「と、飛び込みの取材が……」

「先ほど『サニーベル・イン』からメッセンジャーが来てな」

編集長の笑みが一段深くなった。

歯をむき出して魔獣が笑ってるみたいだった。

「ナイアルさんの払いが二十ミラ足りなかったから払って欲しい、と」

「そ——そいつは……」

「聞けば、ずいぶん遅い朝食だったようじゃないか。で、なんだね、ナイアル君。取材がどうとか言っていたようだが……」

「あ、う……ええとですねぇ……」

すうっと編集長が息を吸い込む。

——こいつはだめだ。

顔を真っ赤にして編集長が口を大きく開けた。

「ドロシー！　仕事だ！　取材に出るぞ！」

叫びながら、ナイアルはもう扉に向かって走り出している。財布もメモ帳もポケットの中だ。背広を脱ぐ前で助かった。

「わわわ！　せ、センパイ！　どこへ！」

「どこでもいい！　どこかだよ！」

扉を開け、後ろから足音が付いてきているのを確認している余裕もなく、一気に階段を駆け下りる。

「ばっかもーーーーーーん!!　誰にツケを払わせてると思ってやがるかーーー！」

壁を震わせる大声が背中を押してくる。

——二十ミラくらい勘弁してくださいよ！

言って収まる怒りなら言っていただろう。ナイアルは不幸にもそれで収まらないことを知っていた。

初めてじゃないからだ。

——次の給料は下がるかもなぁ。

休暇がなくなるのと、どっちがいいだろうかと不毛なトレードオフを検討しつつ。

ナイアルは建物から外へと飛び出した。

通りに飛び出して振り返る。

息を切らしつつすぐにドロシーが追いかけてきた。

シオンとケイが付いていた。

4.

ナイアルは振り返らなかった。

足音の数が減っていないから、シオンとケイが付いてきていることはわかっていた。

——ガキのお守りかよ。しかも二人ぶん。

内心で頭を抱えてしまう。

「センパイ～、いったいどこへ行くんですかぁ」

空気を読まないドロシーがいつものように声を掛けてくる。

大通りを渡りつつ、ちらりと視線を後ろに送った。

すぐ後ろにドロシーが眉を下げて困った顔をしながら付いてきている。

ドロシーの背後にシオンとケイが並んで歩いていた。二人並ぶと、スーツの色が違うものの、同じようにネクタイを締め、同じ柄のつばの狭い帽子を被っていた。

立ち止まって振り返る。

「その格好。そりゃ、いったいなんだ？」

よせばいいのに訊いていた。

仕方ない。好奇心は記者の本能だ。

ドロシーが自分の服をぱたぱたと手で叩いて、はてな、という顔をしているが、おまえじゃねえよ、と目で合図する。

おまえは常に同じ格好だろうが。

「これですか？」

「新聞記者の制服です！」

シオンが胸を反らして言った。

「リベール通信社は制服なんてねえぞ」

「存じてます。まあ……シオンに合わせました」
「記者といえば、スーツにネクタイ、チェックの柄のハンチング！　絶対、これですってば！　俺、ずっとこの姿に憧れてたんです！」
　脇でケイがじと目で睨んでいることも気づかずにシオンが力説する。
　心なしかケイの頬が赤い。少し恥ずかしいらしい。
「あ～、わかりました！　ほら、あれですよぉ先輩、お芝居であったじゃないですか、お姫さまと新聞記者が王都をデートするお話が」
　ナイアルもようやく思い出した。
「『グランセルの休暇』、か」
「はい。あれです、あれ。二年くらい前にけっこう流行った覚えが。お姫さまが可愛かったですー。そういえば、あのお芝居に出てくる新聞記者が、ケイさんたちみたいな恰好をしていました」
「俺、あれを見て、新聞記者っていいなって思ったんですよね！　まあ……王女さまとデートなんて、それはフィクションだってわかってますけど」
　如何にも自分は嘘とホントが判ってますよという顔をした。
　事実は小説より奇なりって言葉を知らねえな、とナイアルはこっそり思う。
「あ、でも、確かバーンズさんは王家の人にも取材しているんですよね！」
　いいなあ、という憧れ目線を向けられてしまった。このふたりに、紙面には書けなかった女王陛下や皇太女の話を語って聞かせたら、いったいどんな顔つきをするのだろう？
「まあ、恰好はなんでもいいんだけどな」
「でしょうね」
　ケイがナイアルを見ながら言った。
　褒め言葉でないことはわかる。
「ナイアル先輩は実はお洒落さんで、いくつも同じ服を持っていて、いつもだらしなく着ているんですよぉ！」
「誉めてねえよ、おまえも！」
「ええっ？」
　——やべえ、いつもの三倍疲れるぞ、これ！
「……付いてくんのはいいけど、邪魔すんじゃねえぞ」
「やった！」
「ナイアル先輩、いいんですかぁ？」
「編集長のお達しじゃ、しょうがねえだろ」
　逆らうより流されるほうがいい時もある。主に心理的な理由で。あげく心労で倒れるかもしれないが。
「で、我々は何の取材でどこへ向かっているのでしょう？」

　ケイが、ようやくかという表情をしてナイアルに問いかけてきた。
「もう、着いてる。ここだよ」
　リベール通信社から東へ歩き、大通りを渡った先にある建物。
『釣公師団本部』と看板には書かれている。
　シオンとケイと、ついでにドロシーまでがぽかんとした顔をしていた。
「ここは？」
　ケイが一番早く立ち直って尋ねてくる。
「書いてあるとおりだ。釣り好きの集まるところだな」
「いえ……それは知っていますが」
「今日の取材はここだ。付いてくるのが嫌なら、遠慮なく帰っていいぞ」
　そう促した。
　ここで言うことを聞いてくれれば苦労はないのだが……。
「わかりました。ご一緒させていただきます」
　ケイが言って、肩から提げたオーバルカメラをケースから出した。そうして、ちらりとドロシーのほうを窺う。
　ドロシーのカメラは既に首からむき出しの状態で下がっている。鞄のベルトと交差するように掛けてあった。この娘は、長距離を旅するときでもなければ、愛用の『ポチ君』を仕舞い込むことはないのだ。
　常にシャッターを切れる状態にしてあることは間違いない。
「念のために言っとくけどな。俺が許可するまでカメラは使うなよ？　こういうところじゃ、やたらと写真を撮られるのを嫌う人もいるからな？」
「だ、そうですよ、ケイさん」
「おまえにも言ってるんだよ、ドロシー！」
「うえぇ？」
「意外そうな顔をしてるんじゃねえ！　いつもいつも突っ走ってシャッター切ってるのはおまえだろうが！　後から誰が頭を下げて回ってると思ってるんだ」
「でも、良い表情って一瞬で消えちゃうこともありましてですねー。と、とと。わ、わかりました～」
　じろりと睨んだら口を閉じた。
「それで……ここで、どんな事を取材するんですか、バーンズさん」
　シオンが言った。
「あー、ナイアルでいい」
「そんなっ。『フューリッツァ賞』受賞記者を名前で呼ぶなんてできませんよ！」
「それも禁止だ。以後、『フューリッツァ賞』がどうとか言っ

たら、同行を断る！」

「な、なぜ――あ、はい。わ、わかりました」

　こちらも、じろりと睨んだら口を閉じた。

　――やれやれ。

「それで――取材理由は？」

　ケイが改めて問いかけてきて、ナイアルはにやりと笑ってみせる。

　ドロシーが震えあがった。

　長年の付き合いだから感じる予感ってやつだ。

「ここの保存資料の中に暗号が隠されているというタレコミがあった」

　重々しく宣言する。

「あ、暗号、ですか！」

　釣りの取材と聞いて嫌そうな顔をしていたシオンが予想通りに食いついてきた。

5.

　石畳から短いステップを上り呼び鈴を押す。

　扉を開いて待つと、通称《釣り男爵》と呼ばれるハーバート・フィッシャーが出迎えてくれた。ハーバートは『釣公師団本部』の代表者だ。

　これなら話が早く進みそうだ。

　入ってすぐの部屋には、壁一面に墨で描かれた魚の絵が掛けてある。

　正確に言えば、これらは絵ではなくて『魚拓』と呼ばれるものだ。釣った魚の記録を残すために、魚に墨を塗って紙に写し取ったもの。

　おそらく歴代の『釣公師団』の団員たちが釣った魚のものだろう。

　飾ってあるのは一部で、立派なものだけを選んだと思われた。中には、両腕を広げたよりも大きな魚のものもある。

「ここに保存されている、ロマール池で獲れるリベールブナの魚拓を見せて欲しいんだが……」

　ナイアルの願いを、ハーバートはこころよく聞いてくれた。

「吾輩たち釣り好きにとって、釣果を誇れるチャンスは逃さないものなのである！」

　そうのたまって、《釣り男爵》はナイアルたちを続き部屋へと案内してくれた。

　縦横十アージュほどの大きな部屋だ。

　部屋の中に棚がずらりと並んでいる。

　手前の棚の引き出しひとつをハーバートは引いて、そこに魚拓がぎっしりと保存されているのを見せてくれた。

「ここから探して欲しいんである」

「げっ！　こ、ここから？」

「全て年代順に保存されておる。だから、ロマール池だけと言われても困るのだ。我が釣公師団は王国全土に広がっているのだからして！」

「あー……それは」

「心配ない」

　縦に一アージュほどもある細長い魚拓を取り出して、ハーバートはそれを広げつつ、

「このように、魚の名前だけでなく、釣った日付と場所と釣り人の名前が書かれているものなんである！」

　そして、自由に調べてくれて構わないが、取り出した魚拓は元にちゃんと戻してくれと言って部屋を出ていった。

「まあ、やるしかねえか」

「ナイアルさん、俺も手伝いましょうか」

　シオンが言ってきてくれたので、ナイアルは遠慮なく頼むことにした。

「見ると、棚に通し番号が振ってあって、こっちの魚拓のほうにも同じ番号が振られているみたいだな。年代が同じなら、日付はどうでもいいようだ。これなら、ロマール池のものだけ取り出して、後で通し番号を見ながら戻せばいい」

「なるほど」

「俺はこっちからやるから、おまえさんはあっちのほうから見てくれるか？」

「はい！」

　元気よく返事が返ってきた。

　よしよし、とナイアルはほくそ笑む。

　部屋の反対側の棚から調べ始めたシオンは、片端から棚を開けると、ロマール池で釣れたリベールブナの魚拓だけをより分け始めた。

　これが、早い。

　見る見るうちに棚のひとつを終わらせて、次の棚に移った。

「ナイアルさん、俺もうひと棚終わりましたよ！」

「おお、そりゃすごいな。やるなぁ。調べ物が早いのは良い記者の条件だぞ」

「そ、そうですか！」

　ナイアルの言葉に、シオンのより分け速度が倍にあがった。

　一時間後には、棚の三分の一が終わっていた。

　ナイアルはゆっくりと最初の棚を終わらせた。

　二時間後、シオンは三分の二を終わらせてしまい、ナイアルはふたつめの棚がようやく終わるところだった。

「おー、早いなー」

「任せてください！」

　軽快な声が返ってくる。昼飯も食べていないはずだが、若いというのは素晴らしい。

　三時間後にはすべての棚から必要な魚拓を抜き終わった。
最後はちょっとだけ頑張ったので、ナイアルは棚四つぶんほどまで進んでいた。
　空き部屋をひとつ借りて、すべての魚拓を抱えて移る。
　部屋の床に、年代順に魚の絵を並べていく。
　全部が終わったときには、さすがに疲れたらしく、シオンは床にへたり込んでいた。
「お昼、買ってきましたー」
　ケイとシオンが百貨店で買ってきた弁当を掲げて戻ってきた。
「おう。ありがとうよ。んじゃ、ちょっと飯にすっか。ほれ、ここだと資料が汚れちまうから、向こうで食うぞ」
「は、はい……」
　言葉もロクに返せないようだ。
　疲れた顔をしてふらふらと立ちあがる。
　休憩部屋として団員たちが使っている部屋のテーブルに弁当を広げ、ナイアルたちは休憩に入った。
　もう夕方に近いが、いちおうこれが昼飯だ。
「で、これからどうなさるのですか?」
　ケイが食後の紅茶をすすりながら訊いてくる。
「並べてある魚拓を保存したい。ぜんぶ撮ってくれ」
「わかりました～」
　ドロシーがポチ君を手にしながらほんにゃりと答える。
「それから社に戻って暗号解読ですね!」
　シオンがようやく弾んだ声で言った。
　ナイアルは「いいや」と答える。
「次はロマール池に行く。もう夕方だからな。まだ日が長いとはいえ、暗くなる前に行っておきたい」
　ロマール池は、王都の郊外にある池だ。
　南から街道に出て、キルシェ通りを東へと行った先にある。
　池と言ってはいるが、ちょっとした湖なみの大きさがあった。
「池……ですか。あの、暗号は?」
「嘘でしょ、あれ」
　ケイが言った。
　シオンの目が丸くなった。
「えっ……」
「だから、嘘だってば。暗号なんて。ああ言えば、あんた一所懸命になるじゃないの」
　どうやら長い付き合いらしいケイがシオンに言って聞かせる。
「まさか」
「いや、嘘だ」
　ナイアルも教えてやった。

「よく頑張ってくれた。その熱意と根性は認めてやる」
　誉めてやったのだが、ナイアルの言葉を聞いてシオンはテーブルにつっぷした。

6.

　広げた魚拓の写真を、ドロシーが写真に撮りまくる。
「おー、可愛いですねえ！　お魚さん、ちょっと泳いでみましょうか。はいはい。それでオーケーですよぅ。素敵ですー」
　相変わらずだった。
　何が楽しいのやら、始終ニコニコしっぱなしで、次々と床いっぱいに広げられたリベールルブナの魚拓をカメラに収めていく。
　その傍らに立って、ケイも同じようにシャッターを切っていた。
　こちらは終始無言。
　やることのないシオンは部屋の隅でふてくされて膝を抱えていた。
「ひどいや……」
　つぶやきが聞こえた。
　ナイアルはこのふたりの事が少しわかってきた。
　記者志望のシオンのほうは熱意と根性はあるようだ。ただ、思いついたら即座に行動してしまうようで、ちょっと思慮が足りない。
　ケイは逆だ。慎重派で理論派。冷静に分析してから物事を進めるタイプ。
　どうやら、ドロシーの一挙手一投足に興味があるようで、彼女がシャッターを切る瞬間を逃さないようにと注視している。そして、ドロシーと同じ構図で写真を撮ろうとしているようだ。
　だから苦労している。
　ドロシーときたら、「あー、その表情いいですねえ、はい、チーズ!」なのだ。
　あれは困るだろう。シャッターを切った理由がわからないからだ。
　風景が見える、というドロシーの主張を理解できるのは、同僚のカメラマンでもおそらくほとんどいないに違いない。
　撮影はあっという間に終わり、棚に魚拓を返すのもさほど時間は掛からなかった。通し番号通りの棚に放り込むだけだから、選び抜くより簡単だった。
　ハーバードに礼を言って、本部を出る。
「次は池に行くんだが……どうする？　ここで帰っても怒らねえけど」
「い、行きます！　こんなところで帰るなんて！」

熱意と根性はある。
見立ての通り、シオンは折れず、ナイアルたち四人は王都の外へと出た。
一時間も経たずに、ロマール池へと辿りつく。
日はだいぶ西に傾いていたものの、まだ夕方というには早い時刻で、あたりの風景を収めるには充分なだけの光が残っている。
資料調べに全力を尽くしたシオンはさすがに息を荒くしていたが、残り三人はまだ余裕があった。
「好きに撮っていいぞ」
ナイアルはドロシーに言った。
「好きにですか？」
「ああ。ロマール池と周りの風景が欲しいんだ。適当に見繕って撮ってくれ」
「わっかりましたぁ！」
元気よくそう答えて、愛用のカメラを手にすると、ドロシーはさっそく池の周囲を回り始めた。
ケイが後に付いていく。
ふたりの少女を見送ってから、ナイアルは池のほとりにある切株に腰を下ろした。
そのままぼんやりと池を見つめる。
ロマール池は王都近郊では最大の釣りのスポットだ。
地元の漁師や釣り好きだけでなく、観光客の中にもわざわざここまで来て釣り糸を垂れる者がいる。
池の周りには木々がぐるりと生えていて、水面に緑の影を落としている。
うなじを通り抜けていく風が気持ちよかった。
魚の影がひとつ、すいっと手前をよぎってゆく。釣り上げても、魚拓にして残したくなるほどの大きさではなかったが。
「ナイアルさん……」
草地にへたりこんでいるシオンがナイアルを見上げていた。
「なんだ？」
「いったいここにはどうして来たんですか？　何の取材なんですか？」
「あー。ちゃんと取材だよ」
「取材……って、何の？　こんなところで一体どんな事件が起こるっていうんですか」
「事件じゃねぇよ。『ロマール池の釣りスポット』って特集を今度の号で載せる。そいつの取材だ」
「か、観光記事ですか」
「まあそうだな」
「そんなの、『フューリッツァ賞』を取った記者の書く記事じゃありませんよ！」

「あのな」
ナイアルは嘆息しつつ言い聞かせる。
「言ったろ。それ、やめてくれねぇかな」
「あ、う、すんません。で、でも、事実じゃありませんか！」
シオンの言葉に、ナイアルは苦虫を噛んだような顔になってしまう。
――嬉しくないわけじゃねぇけどな。
「賞をもらったのは記事を書いた結果だけどな。結果が欲しくて記事を書いたわけじゃねーからなぁ」
シオンがきょとんとした顔をする。
「じゃ、何のために書いてるんですか？」
「さあねぇ……」
ナイアルは空を見上げながら言った。
そろそろ西の空が赤くなりつつある。太陽がだいぶ地平線まで迫っていた。
「どうしたの、ケイちゃん？」
シオンの声にナイアルは顔を横に向ける――ケイちゃん？
ケイがひとりで戻ってきたところだ。
疲れを顔に滲ませている。
「その呼び方はよして、シオン」
「あ、うん」
「どうした？」
「あのひと……なんなんですか」
「ドロシーか？」
ケイが頷いた。
「わけがわかりません。あのひと、『かわいい』『悲しそう』『もっと笑って』しか言わないんです！」
「あー」
「わたしに意地悪をしているのかと疑ってしまいます。わたしは理論を知りたいんです！　どうしたら良い写真が獲れるのか。構図はどう決めるのか。露出や感度を合わせるコツは何か」
「聞いたら教えてくれたか？」
首を振った。
「ぜんぜん。もっと直接的にも言ってみました。『賞を撮るような良い写真の撮り方を教えてください』と」
「そりゃまた……」
ほんとに直球だ。
「そうしたら、あのひと何て言ったと思いますか？」
「何て言ったんだ？」
予想はできたが、あえて聞いてみた。
「『相手がにこっとした瞬間にぱちりっと撮ればオッケーですよぅ』、と……」
悪いと思ったが笑ってしまう。

さすがはドロシーだ。

言われている当人がようやく戻ってきた。

おや、と思う。

こちらも元気がない。

「どしたよ」

ドロシーが顔を上げた。

「かわいくありません」

「は？」

ドロシーの答えに、ケイがげんなりとした表情を浮かべる。

またか、と思ったのだろう。

「あー、もうちょっと聞いてみていいか？　何がかわいくないんだ？」

「あっちです」

ドロシーが指さしたのは、池の北側だった。

「あっち？」

「かわいくないんです。ずーっと不機嫌そうな顔をしていまして。ちっともにっこりしてくれないんですよぅ。どんなに頼んでもダメなんですー」

「ほう……」

当然ながら、ナイアルにはさっぱりわからない。ロマール池の周りはどこも似たり寄ったりの風景で、違いがあるようには見えないのだ。

「絶対笑ってくれたほうがいい絵になるんですけど」

「撮ったのか？」

「いちおう。ナイアル先輩がそうおっしゃったので」

首を捻る。

「俺が言ったから？」

「ロマール池と周りの風景が欲しい、と。周りですから、一部だけ省略するわけにはいかないですし……。でも、かわいくないんですよぅ」

すでに涙声だ。よっぽど不本意だったと見える。

「まあ、……悪かったよ。けど、助かる」

「はぁ」

ため息をついたのはケイだった。

「取材写真にかわいいも何もないでしょう。あなた——バカですか」

ぐさっと、ドロシーが胸に杭を刺されたような表情になる。

これはキツイ。

四つか五つも年下の後輩に言われりゃ、それはさすがのドロシーでも凹むだろう。

「ナ、ナイアル先輩、わたし、バカとか言われてしまいました……」

「心配するな。おまえはバカじゃねえよ」

「ホントですかぁ？」

ああ、と頷いた。

「ちょっと、うかつでドジでトンチキなだけだ」

「あうあうあー……あんまりですぅ」

その場にしゃがみ込んでしまい、梃子でも立ちそうになくなった。

——しまった。駄々っ子が増えちまった。

黄昏に空が覆われる頃まで宥めまくって、ようやくドロシーは機嫌を直した。

王都へと戻り、ドロシーだけは写真の焼き付けのために工房へ。他の三人はそのままリベール通信社の編集部へと帰った。

帰るや早々、ナイアルはタイプライターを叩く。

シオンとケイは疲れ果てたのか、編集部の椅子の上でぐったりとなっていたが、しばらくしてケイが立ち上がってナイアルのところにやってきた。

タイプライターから吐きだされた紙を指さし、「見ても？」と尋ねてくる。

「かまわねーけど？」

ナイアルは言った。

ケイは一枚目から順に読み始め、シオンも立ち上がってケイの脇から覗きこむ。

「ほんとに観光案内記事だ……」

失望を滲ませた声でシオンが言った。

そのまま彼は椅子に戻ってへたり込んでしまう。

疲れた、を繰り返している。

まるで導力が切れた人形のようだ。

だが、ケイのほうは、しばらく読んでいるうちに口数を減らして考え込み始めた。

気付いたらしい。

7.

「シオン」

ケイがシオンに声を掛ける。

シオンが薄目を開けてケイを見た。

「飽きたのだったら、先にお茶してってください。ほら、あのコーヒーハウスで」

「あ、うん……わかった」

促されてシオンが編集室を出ていく。

ドアが閉まるのを待って、ケイがナイアルの傍に寄ってくる。

「釣りスポットの記事が池の南側に偏っているのはわざとですか？」

気付いたか、という表情をナイアルはしてみせる。

ケイはシオンを追っ払ったのだ。

「おまえさんが記者を目指したほうがいいんじゃねえの?」

「わたしにはタイプを延々と叩く作業は退屈すぎます」

「……なるほど」

「ああ見えて、シオンはそれが苦痛ではないらしいのです」

ナイアルは昼の出来事を思い出した。

延々と魚の魚拓を調べる仕事を、シオンのほうは文句ひとつ言わずにやっていた。

「確かにな」

誰にでも得手不得手というのはあるものだ。

それに、記者の全てが探偵もどきではあるまい。

もちろん空想で記事を書かれては困るが、丹念な取材をベースにして固い記事を書くというスタイルもありだろう。

「少しくらい種明かししてくれても?」

「そうだな」

ちょうどドロシーが戻ってきた。

焼き付けた写真を広げながら、ナイアルは語り始めた。

「こいつと同じものはあんたも撮っていたはずだな」

魚拓の写真を見せながらケイに問いかける。

「はい」

「っと、ありがたいな。言わなかったのに、この大きさにしてくれたか」

写真は、一枚につき魚拓が四つ映っていた。そのサイズで写すと、書かれている内容まで読みとれる。一枚ずつ写真に収めたら閲覧性は下がるし、もっとたくさんを写し込んでしまうと、書かれた文字が読み取れない。

「ナイアル先輩がそうおっしゃったので」

ドロシーが言った。

池の写真を撮らせたときと同じ答えだった。

「俺は確か、並べてある魚拓を保存したいって言っただけだが」

「字が読めなかったら、保存にはならないですよぅ。お魚の絵が欲しいだけなら、そう言われると思いましたし」

「……なるほど」

無意識だったが、確かに閲覧性と保存を考えると、このサイズで写してもらうのがベストだった。

ケイが信じられないというふうに言った。

「そんなこと考えてたんですか」

「いえ」

ドロシーが否定する。

「あんまし考えてなかったですけど。なんとなく、こっちのほうがナイアル先輩が喜びそうだなあって」

——そこは嘘でも『考えた』って言っておけ。

ケイの瞳がまたジト目に戻っていた。

ナイアルは写真をつきながら、「で、こいつを見て何か気づくことは?」とケイに促す。

ケイは考えこんで、それから肩をすくめた。

「さっぱり。わたし、こういうのは苦手なんです。シオンだったら何か気づくかもしれませんけど。彼、直感は得意だから」

「そいつも記者には大事な条件だけどな。じゃあ、こうしたらどうだ」

写真の中に映っている魚拓のいくつかにペンで丸を付けていく。

ナイアルのペン先を視線で追っていたケイが、はっとした顔になった。

「魚が……小さくなってる?」

「当たりだ」

にっとナイアルは笑みを浮かべた。

リベールブナ全体を見ていても、これは気づかない。

だが、中に書かれた釣りの記録から池の北側のものを選ぶと、そこに見えてくる。

数年前から、少しずつ魚の大きさが小さくなっている。

「で、こっちだ」

今度は池の周りの風景写真を並べる。

じっと睨んでいたケイが、小さく息を呑んだ。

「わかる……」

「ほう?」

「これは……どうして。同じように見ていたはずなのに、それに——」

ケイは自分のオーバルカメラを取り出して、背後の投映板に映した写真を次々と表示させた。

「わたしの写したものだと、ぜんぜん違いがわからないのに!」

「それはそうですよぅ。そのひとが笑ってるか泣いてるかなんて、後ろから見てもわからないじゃないですかぁ」

ドロシーが言った。

「いやまあ言わんとすることはわかるけどな。その説明、わからないと思うぞ」

ふつうの人間にはそもそも風景の表情なんてものは見えないのだ。

「明らかにこっちの風景は変です……。葉の色?　それと、木々の隙間が少し大きいような……。それがちゃんと反映されているから、こんな風に……?」

考察は得意なケイは、いちど見えてしまえば差異を言葉で説明できるらしい。

愕然とした表情になった。

ドロシー・ハイアットという天才の技を目の前で見せつけられてしまったのだ。

　ナイアルは種明かしを続ける。

「池の北側には、ここ数年で建てられた新しい工房があるんだ」

「それが？」

「その工房が、廃液をそのまま川に流しているという噂がある。川の水はあのロマール池に流れ込む。池の水が汚染されてるって言われてな。工房のほうは認めちゃいないが。そのせいで、あたりの植物や、魚の成長が阻害されてるってわけだ」

「これを調べるために、釣公師団本部に？」

「あそこなら、ここ数年の魚の資料があるだろうと思ったんだよ。ちょうど観光スポットの記事を書くって言い訳もあったし。まあ、そっちの記事のほうは池の南側に絞って載せるつもりだけどな。ただでさえ魚の数が減ってる北側から釣られても困る」

「そこまで考えて……」

「ついでだ、ついで！」

「と、ナイアル先輩はいつも言いますよねー」

　うるせえよ、とドロシーにはとりあえず怒るふりをする。

「はあ。教えてあげれば、あそこまでシオンもがっくりしないでしょうに」

「どんなに調べたって結果なんて出ないことのほうが多いんだ。今回だって、確信はあったが、取材してすぐに明らかになるなんて期待してなかった」

「そうですか……」

「まあ、それでも地道にやらねえと、そもそも記事なんて書けねぇんだけどな。情熱は不可欠だが、情熱だけじゃ続かねえよ」

　苦笑いしながらナイアルは「ま、情熱だけは充分かな」と付け足す。

　なるほど、とケイが頷いた。

「彼の情熱だけは認めていただけた、と」

「まあな」

「わたしも、見た目だけで侮ってはいけないと学びました。わたしの目はまだ節穴だったようです」

　その言葉に、ナイアルはちらとドロシーを見る。

「そうかもな」

　そう返すと、ケイもちらりとドロシーを見ながら、池の写真を見て、

「大変、不本意ですが」

　出鱈目に撮ったようにしか見えなかった写真が、今の池の状態をつぶさに描き出している。

　ドロシー・ハイアットは風景の表情が見えるのだ。

　笑い顔や泣き顔や困り顔として認識できる。

「認めます。ドロシーさんは確かに『フューリッツァ賞』に値するカメラマンだと」

「なんですなんです？　わたしの顔に何か付いてるんですかぁ？」

「ああ。ほっぺたにクリームが」

「ええっ⁉」

「さては工房から帰ってくる途中でクレープを食ってきやがったな！」

「あう。ばれてしまいましたぁ」

　ドロシーはごしごしとほっぺたをこすってクリームを落とした。

　にやっと笑って、ナイアルは言う。

「ってことは、もう夕飯はいらねーってことだよな」

「これは、お、おやつですよ？」

「働かざるもの食うべからず！　いつもおまえが言ってるよなっ」

「ああ〜。あんまりですよぅ」

　ドロシーをからかっていると、ケイがはあとため息をついた。顔を向けると、ナイアルたちを苦笑した顔で見つめていた。

「シオンが待っていますから、ここで帰ります」

「ん。ああ、わかった」

「わたしたちも、もっと精進して出直してきます」

　そう言って頭を下げるケイに、ナイアルはひらひらと手を振ってやる。これでも大サービスだ。ドロシーは「またお会いしましょうね〜」と笑顔で送り出した。

　――すっかりバカにされたことも忘れてやがる。

　まあ、それがドロシーだった。

エピローグ

　書類と写真をまとめているうちに、編集部にはナイアルとドロシーだけになっていた。

　がらんとした机が並んでいる。

　残業する者たちは、みな夕食を取りに出てしまったのだ。

「出遅れたか」

　辛抱強く待っていたドロシーのお腹がぐうと鳴った。

「お腹空きました……」

「待たせたな。ほれ、メシを食べにいくぞ」

　言ったナイアルを、ドロシーがしみじみとした顔で見つめてきた。

「どうしたよ？」

「先輩、昔はもっと邪険でしたよねー」

「はあ？」

「覚えてますか。わたしと先輩が出会ったとき……」
「ああ」
　もちろん覚えている。
　カメラを見せたら、勝手に持っていって、好き放題に写真を撮りやがったのだ。当時は感光クオーツも今ほど安くはなかったというのに。
　素人に大事な機材を壊されたと思っていた。
　だが、生まれて初めてカメラに触ったというドロシーが映した写真は、どれも目を瞠るほどの出来栄えで……。
「……ってことは、おまえとカメラを出合わせたのは俺ってことになるのか」
　今さらながらだが感慨深い。
「そうですよぅ。ナイアル先輩はわたしの恩人ですー！」
「それ以来の付き合いだからな。まあ、おまえさんの直観的写真術にも馴れた」
「はぁ。そーゆーものですか」
「根拠なく言ってるわけじゃねえってこともわかったからな」
　理論的な説明はできなくとも、直感的に周りの風景を解釈しているのだ、この娘は。
「根拠はありますとも。可愛いものは可愛いですから！」
「それは根拠じゃねえよ！」
「ですかぁ？　しかしナイアル先輩も辛抱強くなったもんです」
「おまえがゆーな」
「まあ、わたしのほうも先輩の横暴に慣れましたし」
「新入りを鍛えるのが先輩の役目だからな」
「あの子たちも、ですか？」
「は？」
　言われて、シオンとケイのことだと気づく。
「後輩として入ってくるかもですよぅ」
「勘弁してくれ」
　そうなったときは、また取材旅行に出るとしよう。
　リベール王国はさほど大きな国ではないが、取材で回るには決して小さくはない。
　追いかけてみたい事件もまだまだある。
　ドロシーをちょっと小突く真似をしてから、ナイアルは財布をポケットに捻じ込んだ。
「ほれ、行くぞ」
「あ、はい！」
　これだけは手放さないオーバルカメラを肩から提げなおして、ドロシーが立ち上がる。
　そんなドロシーを見つめ、小声で聞こえないように、
「これからも頼りにしてるぜ、相棒」
　ナイアルはこっそり言うのだった。

END



ティオと――
ダルク先生の～～
みんな集まれ！
ファルコム学園
ファルコム学園ラジオ～～～!!
新久保だいすけ
超～～～ウルトラめんどくさいです
できることなら今すぐ帰って寝たいです…
本気で心の底からめんどくさそうだ――!?
ぷしゅううううう



英雄伝説 零の軌跡
FB ファルコムBOOKS
午後の紅茶にお砂糖を
著者：むらさきゆきや
イラスト：窪茶
こんな『零の軌跡』もアリ!?
日本ファルコムの大ヒットＲＰＧ『零の軌跡』・『碧の軌跡』の主人公【特務支援課】の日常は意外とまったり!? 本編とは一味違った彼らのゆる～い毎日を描いて『月刊Falcommagazine』で大人気を博したノベライズがついに単行本で登場！
12月6日発売!!
価格：1,155円（税込）
ISBN：978-4-89610-255-0
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp



えーこの番組はザナドゥに召喚された皆様の相互理解を深めるため……
エリカ・ラッセル博士のご協力のもと開発された《導力ラジオ》にてお送りする情報バラエティ番組です と
で具体的に何をするんです？
帰りたい…
えーと とりあえず皆さんからのお便りを読んだりゲストを招いてお話をする予定だ！
どうやらボクを呼んでいるようだね……！
フフフフ
「ゲス」ではない「ゲスト」だ！座っていろ!!
ゆらり
では早速ご紹介しましょう
記念すべき第1回のゲストは…
クロスベル通信社の若きカメラマンレインズ君と！
天才スーパーハッカーヨナ君だァァ!!



さて次は皆さんからのお便りのコーナー
呼んどいてスルーだと!?
当たり前ですッこんな華のない連中の話聞いて誰が喜ぶんですかッ
いちいちごもっともなだけに腹立つなちくしょー!!
パアアアア
しかし困ったな今から誰か呼ぶわけにも…
ドオオオ
オオン
うわっ!?
な 何だこの光は!?
理の力が発動してます
今まさに誰かが召喚されようとしている!!


ん…？
んんん～？
……ん
え なに何？
どこなんココ
何であたし
こんな所におるん？
ウホッ
美少女発見！
!?
いやぁあああ
ウハハハハへ
ええやないか
ええやないか
変な訛りの
姉ちゃんやな
どこ出身や？
ケビンがゆーな
この声…
まさか…
カリン姉さん？
確かに似た声だが…
口調も性格もカリンとは
全然違うぞ？
ウホホホ 肌スベスベや！ スベスベやで!!
ひぃぃぃぃいいいい
それってやっぱり
理の影響ってヤツ？
いや 姉さんは
元からこんな
だったよ
は!?
姉さんってばレーヴェの前では
別人みたいにおとなしくてさ
ボクは毎日笑いをこらえるのに
必死だったよ…
やめてくださいぃぃ
よっしゃ
まかしとき！
ペロペロ
ペロペロ
ペロペロペロ
いや、なめて
じゃなくて
やめてぇぇ
ウソだ！ ウソだ!!
カリンはこんな
発情期の○○○みたいな
女の子じゃないもんッ!!
現実を見ましょう
レーヴェさん！ オトナの女は
男の知らない顔をいくつも
持っているものなんです!!
あー！ あ――!!
あ――――!!!
そうそう
らじおの
でぃーじぇーー？
よーわからんけど
ここでおしゃべり
するだけでええの？
よし！ これで
「華」は確保できたな
では改めて
タイトルコール！
ティオと！
カリンの!!
ファルコム学園
ラジオ～～♪
当然のように
タイトルから
誰か
外されてる
ウウ――!?


ではさっそくふつおたのコーナー！
「ふつおた」？
皆さんからいただいたふつうのお便りをご紹介するコーナーです
雑用係に降格
コレ読んだらいいんかな？
えーとなになに…「私には妹が一人いるのですが甘えん坊なくせに生意気で困っています…」
あたしにも弟おるけど年下なんてそんなもんでしょー むしろ甘えさせてあげるんがお兄ちゃんの仕事と違う？
どーん！と
おお ナイスなコメントですカリンさん！
カリンさん 名前 名前
あ コレね 送ってくれたのはザナドゥ在住のチェスター・スタダートさん！
…うわゴメン！「匿名希望」って書いてあったわ!!
あらあら あらあら あらあら


まぁ ええか♪
いいんですか!?
ブッ
な 何です 放送システムが止まった!?
ふ…ふふふ… ふはははは ッ
ボクが天才スーパーハッカーというのを忘れていたみたいだな！
SYSTEM is MOROTADE
よい子はマネしちゃいけないぞ
このスタジオは我々が乗っとらせてもらいましたよ――!!
さぁそれでは「ダルク先生の飛び出せ！青春ラジオ」始まるよ～!!
何言ってるんだ「ヨナ様のミステリーピザクッキング」で決まりだぜ!!
いやいや「レインズ君のほんわか大胸筋ラジオ～ぱんぱん鍛えてこ！」ですよ!!
ティオ・フィナーレ



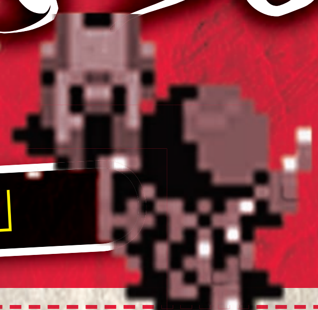
目指せ!ファルコム一番星!!
FB ファルコムBOOKS
開校御礼!
何がどうしてこうなった!?『月刊Falcommagazine』でお馴染み、日本ファルコムの歴代人気キャラクターたちが繰り広げるドタバタ四コマコミックが満を辞して登場。新久保だいすけが描くトンデモな学園生活がスタート!
俺たちの学園生活が単行本化だと…?
本当ならレンも一冊欲しいわ
全国書店で大好評発売中よ!!
みんな集まれ!
ファルコム学園①
著者:新久保だいすけ
価格:893円(税込)
ISBN:978-489610-245-1
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行:フィールドワイ
発売:メディアパル
フィールドワイのHPはこちら www.field-y.co.jp



二人共 今日は お疲れ様でした 次もよろしく お願いしますね
このくらいなら お安いご用や!
めんどくさいです…
ティオちゃん ラジオ 面白かったよ!
おや ヨシュアさんに エステルさん… レーヴェさんまで
ホラやっぱり もう一人は カリン姉さんだ
まぁレーヴェ
まさかこんな所で 会えるなんて!
うわぁあああッ ウソだっ何もかも 幻だぁぁぁぁあッ!!
あら? どうして逃げるの 待ってよレーヴェ♪
この後ザナドゥ中に本性を 公開されているとは気付かぬまま 「ティオとカリンの ファルコム学園ラジオ」は 空前の人気番組となってゆくのだが それはまた別のお話
ウフフ~
べ別人のように…

人生半キャラずらし

jdkバンドのドラマー・オカジがファルコムと音楽と人生について熱く語ります！



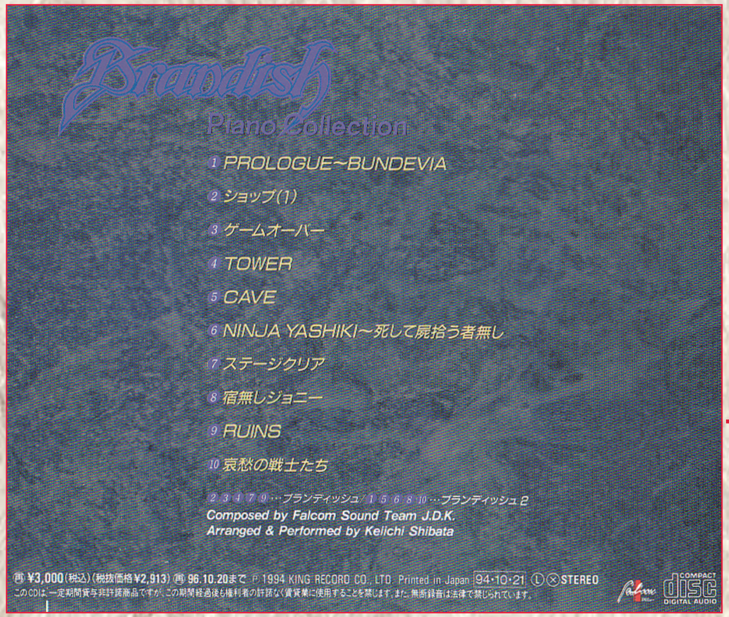
「ブランディッシュ ピアノコレクション」

最近、ブランディッシュ2をクリアしました。人生で2度目、おおよそ20年ぶりです。

もはやほとんど何も覚えていなかったので、初見プレイと言ってしまっても過言ではないような状態でしたが、改めて今このゲームをプレイしてみると本当に面白い。どんなに難しいトラップや謎解きも、諦めずにプレイしていれば必ずクリアできる絶妙なバランス感覚。そして、一見面倒臭そうなマッピングも、活用の仕方次第でゲームを有利にプレイできるので、最終的にはマップに色々と書き込む事自体が快感になっていきます。アナログ16色という限定された同時発色数で描かれた数々のイベントグラフィックも壮麗のひと言。美しいグラフィックなど当たり前の現代においても、当時ファルコムが創り上げた作品は輝きを失ってはいません。



そして、やはりファルコムを語る上で欠かせないのが音楽……って、何度目なんだろう、この発言









岡島俊治（Okaji）

1979年6月9日生まれ
ドラマー/パーカッショニスト/作曲、編曲家/プロデューサー
洗足学園短期大学器楽科打楽器専攻卒業。
2000年、ロックバンド『HeadPhonesPresident』のドラマーとしてデビュー。
2005年、同バンド脱退後はフリーミュージシャンとしての活動を開始。様々なアーティストのサポート、レコーディング、プロデュース等を行う。
2008年より『ファルコムjdkバンド』に参加。
主な共演歴：jdk BAND、Sixh.Opera、HeavensDust、野宮真貴、植村花菜、CORE OF SOUL、DENIAL、安藤裕央、清田愛未、中村幸代、一純悠人、momokomotion、越尾さくら…etc

は……いや、でも何度でも言います。ファルコムは音楽なんです。凄いんです！（笑）

ブランディッシュシリーズの音楽は、一見、イースシリーズのような派手さは無いように感じられるものの、実は美しく、耳に残るメロディーのオンパレード。今日はその美しいメロディーの数々を、ある意味、一番ダイレクトな形でアレンジしているであろう、この珠玉のアルバムをご紹介したいと思います。

「ブランディッシュ　ピアノコレクション」

このアルバムはブランディッシュ1と2の名曲達を、故・柴田敬一氏が編曲と演奏を担当し、流麗なピアノをメインに、時に儚く、時に幻想的にアレンジした一枚。ブランディッシュの音楽とは、こんなにも美しかったのかと再認識せざるを得ません。私見ではありますが、ブランディッシュの音楽の真髄はこのアルバムにすべて体現されていると言っても過言ではないと思います。

特筆すべきはなんと言っても、1の「ゲームオーバー」のアレンジ。ゲームをプレイしていると、ついついすぐにコンティニューしてしまうので、僕自身、あまり印象に残っていた楽曲ではありませんでした。ところが、このピアノアレンジは、志半ばにして行き倒れたアレスの亡骸が朽ちていき、その後、永遠に閉ざされた闇の中で、誰に知られることもなく時を過ごしてゆく……そんなストーリーすらを感じさせるアレンジなのです。

また、衝撃的ですらあるのが2の忍者屋敷のアレンジ。まず、イントロの原曲のイメージをさらに拡げたようなシンセでのアレンジに驚かされます。

「あれ？ピアノアレンジじゃないの？」

僕も最初に聴いた時こそ、そう思いました。ところがこれはあくまでイントロ。ひとしきりイメージを拡げた後には、やはり素晴らしいピアノアレンジが始まります。自決を顧みない忍者達の、あまりに儚い生き様を感じさせるような切ないメロディー。ゲームをプレイしていると、そんな彼らを時代劇さながらにバッタバッタと切り倒していくわけですが、このアレンジを聴いた後では少し躊躇してしまうかもしれませんね（笑）。

他の楽曲もどれもこれも上質で、原作を知っていればいるほど、イメージが膨らんでしまうようなアレンジばかり。ピアノがメインで、音数が少ない事がむしろリスナーに色々な事を想像する余地を与えているようにも思えます。本当に素晴らしいアルバムです。ぜひできるだけ多くの人に聴いて頂きたいと思います。

と、まあ、そんなわけで、2もクリアし、このアルバムを改めてジックリ聴いたこともあり、完全にブランディッシュモードに突入しているワタクシ、ガディス岡島でした。

……そうそう、ここで皆様にニュースが！　なんとjdkTVとファルコムラジオのコラボレーション企画が開始されたのです。もうすでに2回目までの収録は終えており、このコラムを皆様が読む頃には最新のjdkTVも公開され、その全貌が露見したタイミングかとは思います。この企画は「ガディス岡島のファルコムクロニクル」と銘打って、ラジオでお馴染みのガチくん、しおりんの二人にファルコムゲームの歴史を教えていくというコーナーなのですが、第2回目のテーマにはブランディッシュを選んでしまいました。完全に私情です。アーッハッハッハ。（バミー様風）

ぜひ、来月のファルコムラジオ、jdkTVの放送を楽しみにしていて下さいね！　それではまた次回のコラムでお会いしましょう。ではでは！

ファルコム楽曲4,118曲をiTunesで世界111ヶ国に配信中。
(ファルコム楽曲はすべて高音質化、DRMフリーが適用されたiTunes Plusでの配信となります)

※iTunes配信中のコラム関連アルバム情報※
【ブランディッシュ ピアノコレクション】
iTunes配信価格……1,500円(税込)
収録曲数：全10曲
1．PROLOGUE～BUNDEVIA　2．SHOP(1)　3．ゲームオーバー　4．TOWER　5．CAVE　6．NINJA YASHIKI～死して屍拾う者無し　7．ステージクリア　8．宿無しジョニー　9．RUINS　10．哀愁の戦士たち
ジャズピアニスト“柴田敬一”が奏でる
珠玉のブランディッシュ・ピアノアレンジ集

≪Falcom jdkバンドライブ特設サイトURL≫
http://www.falcom.co.jp/jdk/index.html

コテ放題

コテカナことjdkBANDボーカル小寺可南子がゲームと共に、好き放題な日々のことを描くコラム!!

▶PROFILE

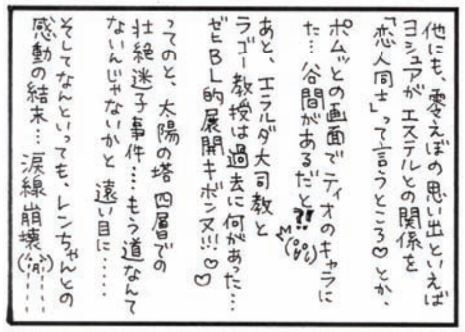


日本ファルコムのゲームソングを奏でる専属バンド "jdkBAND" のボーカル。webラジオ「ファルコムラジオ "めんどくさいです…でもがんばります"」では声優水橋かおりさんと共にパーソナリティをつとめる。その他CMソング、ジングルなど活動は多岐に渡る。
twitter @cana_ko_tera

「零えぼ」回想編！

まいどどうも！ 小寺可南子です！ 先月零えぼを自分史上最速の4ヶ月という早さでクリアしたわけなんですが、しばらくゆっくりこの感動に浸りたい気分。ということで、今回は思い出に残るアレコレを振り返ろうと思います！ まずはゲーム中じっくり堪能できたフルボイス！ 気になってたキャラ達が喋りまくり！ 最初の頃はLRボタンでも会話が進むことを知らず、誤操作で貴重なワジ様のセリフを飛ばし涙目になったのもいい思い出です……。場面場面で流れる音楽も素敵でしたね！ 戦闘曲もさることながら、個人的にはBARガランテで流れるJAZZっぽい曲が好みでした。いつかjdkバンドで演奏してみたいな～。あと、心境に変化が起きてきてて、リーシャたん推しだった私が今ではノエルさんに推し変しそうな勢いです！ ノエル可愛いよノエル！ 絶対領域からのぞくまろやかな太もも！ 凛々しい掛け声！ 銃を華麗にさばく手つき！ しかも妹も可愛い！ シーカー家の子になりたい!! この熱い想いの続きは漫画で！













2011年10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪

ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります
■**配信日**　毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
■**メインパーソナリティ**　水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役）　小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
■**公式ホームページ**　http://www.falcom-radio.com/

第81回　岡島俊治（ファルコムjdkバンド）　上倉紀行（ファルコムjdkバンド）

ファルコムラジオが、一ヶ月にゲストひとりをお招きして3回、ゲストなしで行なわれる収録が1回という構成となったリニューアルが行なわれ、その第1回目となった81回。この回では新コーナーとして、ファルコムjdkバンドのメンバー・岡島俊治さんや上倉紀行さん、小寺可南子さんたちがニコニコ動画で不定期更新中の「jdkTV」とのコラボ企画「ガディス岡島のファルコムクロニクル」がスタートした。

▶第81回の舞台裏◀

本誌でもコラムを連載中の岡島さんは、ご存知の通り歴戦のファルコムファン。そんな岡島さんが古きよきファルコム作品を支援課見習いに教える当企画。それとは逆に、今のファルコム作品を取り扱う企画をjdkTVの方で配信予定とのことなので、期待しよう。

第82回-第84回　平川大輔（『零の軌跡Evolution』ツァオ・リー役）

82-84回のゲストは、零の軌跡ドラマCDで初登場し、昨年発売された『零えぼ』で、ゲーム本編でも声を当てることになったツァオ役の平川大輔さん。ラジオ初登場、なおかつ、一癖も二癖もあるツァオというキャラを平川さんも気に入られているということで、キャラクターに、平川さんご自身にと、話題に尽きない収録となった。また、84回では、シリーズ最新作となる『閃の軌跡』でも、登場キャラクターのひとりを演じるということが明らかにされ、大いに盛り上がった。

▶第82回-第84回の舞台裏◀

平川さんが『閃』で新たに演じるルーファスは、主人公の仲間・ユーシスの兄という重要な役どころ。今後の情報解禁に伴い、ルーファスについても深く掘り下げて語って欲しいという声が多数出てきそうなだけに、再び平川さんがゲストとして来る日があるかもしれない!?







今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！







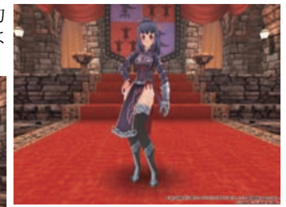


ファンタジーアース ゼロ

軌跡キャラになりきって冒険に出かけよう!

広大なフィールド上で仲間と力を合わせて巨大な敵を撃破しよう！







遊撃士協会か特務支援課のどちらかに所属して行う特別イベントも開催

仲間と共に成長していく大人数バトルが魅力のオンラインアクションＲＰＧゲームが「軌跡」シリーズと夢のコラボレーション！ 『空』から『碧』まで総勢25名のキャラクターたちがファンタジーアースの世界に登場、さらにキャンペーン期間中に新規登録すれば限定のエステル＆ヨシュアのボイスもプレゼント。コラボ実施期間は７月１日までなので、始めるなら今がチャンスだ。

英雄伝説 空の軌跡 the 3rd：改 HD EDITION

もうひとつの『空』の物語をPS3で!

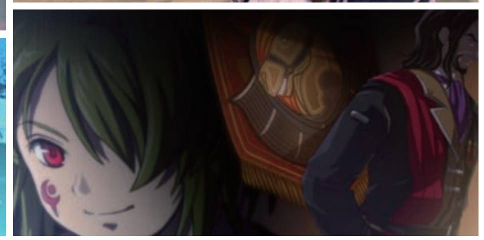
「軌跡」シリーズ第３作目として2007年にＰＣ向けで発売された人気作がＰＳ３を舞台に生まれ変わる！ 『空の軌跡 ＳＣ』の半年後の世界で始まる今作では、星杯騎士・ケビンを主人公に『空』のキャラクター達のその後や過去などのエピソードを描いていく。発売にあわせてイベントも企画中。詳細はファルコム公式ホームページで近日中に公開予定なのでチェックを忘れずに！











Falcom FanArt Collection

数々の名作で多くのファンを生み出してきた日本ファルコム。
FFCでは、そんなファルコムを愛するイラストレーターの方々のイラストとコメントを毎月お届けします！



らくら

発売が近づいている閃の軌跡からフィーを描かせて頂きました。システム、帝国編、学園物…と色々気になる要素はありますが、一番音楽が気になっています。今回も熱い音楽で盛り上げていって欲しいです！

『英雄伝説 閃の軌跡』(2013)

2013年９月に発売が決定した「軌跡」シリーズ最新作。今作はゼムリア大陸西部の大国エレボニアの士官学校が舞台となっている。様々な想いと葛藤を抱えた生徒たちの戦いがここから始まる！

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



① 3名様

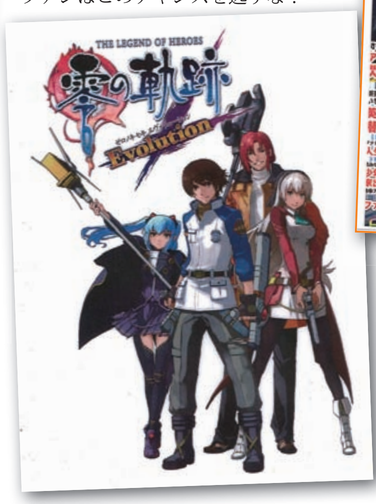
❶楽時たらひ先生＆田沢大典先生
サイン入り レーヴェ物語③

現在絶賛発売中の『空の軌跡外伝 レーヴェ物語』最終巻に作画・シナリオ両先生のサインが入ったスペシャル仕様！

② 2名様

❹零の軌跡Evolution
クリアファイル

エナミカツミ先生のイラストを全面に使用したクリアファイル。特務支援課ファンはこのチャンスを逃すな！





④ ?名様

❹閃の軌跡マガジン
vol.4

毎号『閃の軌跡』の最新情報をお届けするフリーマガジン。今月号では新たな戦闘システムに注目だ！

プレゼントの応募方法

こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。
プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

●下記のメールアドレスをご記入ください。
●お名前（ペンネーム可）をご記入ください。
●右記の記事一覧から、今月号で一番面白かった・つまらなかった記事をご記入ください。
●ご意見・ご感想などをご自由にご記入ください。
●希望するプレゼントの番号をご記入ください。

宛先：
件名：vol.28プレゼント係
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
◆
面白い：
つまらない：
◆
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
◆
1

●「vol.28プレゼント係」とご記入ください。

【記事一覧】
1：英雄伝説 閃の軌跡 潜入レポート
2：『みんな集まれ！ファルコム学園』
3：英雄伝説 空の軌跡
　リベール王国スナップショット
4：jdkバンドドラマー・オカジの
　人生半キャラずらし
5：ティオのファルコムラジオ
　めんどくさいです…
　でもがんばりますの舞台裏
6：jdkバンドボーカル・コテカナのコテ放題♥
7：FalcomFanArtCollection
8：ファルコムニュース

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り 6月26日

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後３ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.28

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 大場恵美子
ライティング	宮崎洋平
デザイン・DTP	さとうだいち
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（ビーニーズ）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/
制作・販売協力	シナノ印刷株式会社